資料 ３

「旧佐橋家住宅」の国登録有形文化財への登録について

西つつじケ丘一丁目に所在する「旧佐橋家住宅」について，令和４年７月２２日，国の文化審議会は文部科学大臣の諮問に対し，国登録有形文化財（建造物）に登録するよう答申しました。今後，１１月に予定される官報告示をもって正式に登録されます。

１　所在地

調布市西つつじケ丘１丁目２７番地

２　建築年代

昭和１１年（１９３６年）建築

３　登録名称

(1)　旧佐橋家住宅主屋（しゅおく）

(2)　旧佐橋家住宅門

４　所有者

個人

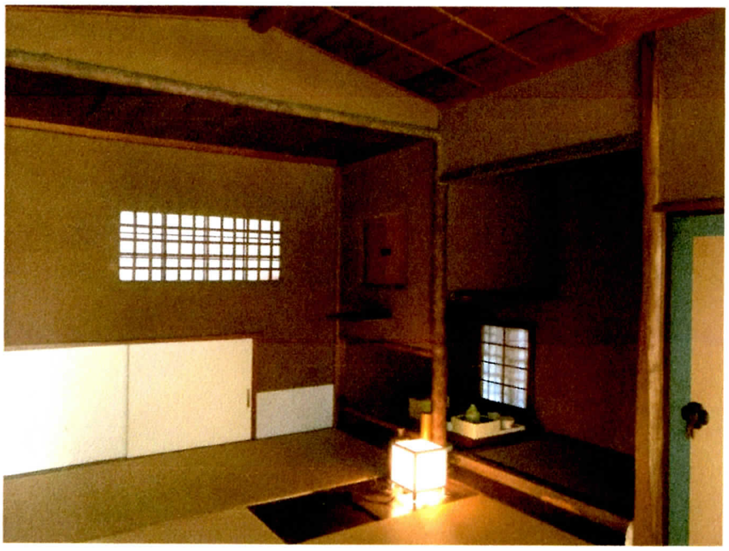
５　特徴・評価

旧佐橋家住宅は，西つつじケ丘１丁目の甲州街道沿いに所在する茶室付の和風住宅である。施主である佐橋関次郎（さはしせきじろう）（１８６８年～１９３６年）は，茶道（松尾流）や華道，俳句などに長け，台湾の総統府で皇族などの接待係を務めていた。帰国後，現在の中野駅近くに居を構え，俳句やお茶などを趣味として過ごしていたが，中野周辺の都市化が進むにつれ，喧騒を避けるため，昭和１１年，現所在地に茶堂と生活が一体となった終の棲家を自ら設計した。

建物（主屋）は切妻造り，桟瓦葺（さんがわらぶ）きの木造二階建てとなる。玄関から仏間，茶の間，寄付（よりつき）の三方に動線を分けて平面に工夫を凝らし，船底天井茶室など，平面と空間構成に創意工夫があると評価され，国登録有形文化財に登録されることとなった。

昭和３７年（１９６２），東京オリンピックに伴い行われた甲州街道拡幅工事の際に，主屋及び門は北方向に曳家されている。

名称	旧佐橋家住宅主屋
所在地	東京都調布市西つつじケ丘一丁目二七
建設年代等	昭和一一年／同三七年移築・同六〇年改修
登録基準	二　造形の規範となっているもの
特徴・評価	甲州街道沿いに数寄者が自ら設計した茶室付の和風住宅。富士山を望んだ二階建で、切妻造桟瓦葺四方下屋、真壁造漆喰仕上とする。玄関から仏間、茶の間、寄付の三方に動線を分けて平面に工夫を凝らし、舟底天井茶室など、平面と空間構成に創意工夫がある。
備考（調査等）	建築年代は上棟幣串による。施主の佐橋関次郎は海産物商で松尾流茶道を嗜む。昭和三七年にオリンピックに伴う甲州街道拡幅に伴い曳家。同六〇年に水廻りを改修。



名　称	旧佐橋家住宅門
所在地	東京都調布市西つつじケ丘一丁目二七
建設年代等	昭和一一年／同三七年移築
登録基準	一　国土の歴史的景観に寄与しているもの
特徴・評価	甲州街道に開く数寄者の住宅表門。切妻造金属板葺で元は竹で押さえた杉皮葺。軒裏は杉柾目板に葭を挟む。棟木と軒桁をナグリ仕上の柱で支え、欄間は曲がり枝の中備えに漆喰壁を載せる。引違板戸を建て、背後に主屋の茶室へ飛石を延ばす、侘びた外露地門。
備考（調査等）	建築年代は主屋上棟の写真による。施主の佐橋関次郎は海産物商で松尾流茶道を嗜む。昭和三七年にオリンピックに伴う甲州街道拡幅に伴い曳家。

報道発表

文化庁
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

令和４年７月２２日

文化審議会の答申（登録有形文化財（建造物）の登録）

文化審議会（会長　佐藤（さとう）　信（まこと））は、令和４年７月２２日（金）に開催された同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、新たに１３６件の建造物を登録するよう文部科学大臣に答申しました。

この結果、官報告示を経て、登録有形文化財（建造物）は１３，５４６件となる予定です。

１．今回答申された登録有形文化財（建造物）の概要

	新規登録	累　　計
登　録　件　数	１３６	１３，５４６
関係都道府県数	３２	４７
関係市町村(区)数	６０	１，００２

○時　代　別

（件）

	江戸以前	明　治	大　正	昭　和	計
新規登録	３７	３６	２２	４１	１３６
累　　計	２，４１９	４，２６７	２，７４８	４，１１２	１３，５４６

○種　　　別

（件）

	産　業			交通	官公庁舎	学校	生活関連	文化福祉	住宅	宗教	治山治水	他	計
	1次	2次	3次										
新 規	4	7	15	0	3	5	0	3	63	36	0	0	136
累 計	123	1,419	1,694	513	240	422	337	463	6,063	1,964	223	85	13,546

（件）

	建　築　物	土木構造物	その他の工作物	計
新規登録	１１９	1	１６	１３６
累　　計	１０，７５２	６６４	２，１３０	１３，５４６

NO.	名称	所在地	建設年代	特徴など	基準	種別	基準
17	旧萠(あざみ)家住宅店舗兼主屋	千葉県印旛郡酒々井町	M中期／同40増築・S28改修・H30移築	佐倉街道酒々井(しすい)宿に所在する醬油や茶を扱った商家。重厚な土蔵造りで、一階正面格子戸で内部は土間とミセ、二階正面は手摺り付の開口として内部は床構え付きの広い座敷とする。賑わった街道の歴史的景観を伝える豪壮な店舗。	1	産業3次	建築物
18	亀井家住宅主屋	東京都世田谷区	S5	住宅街に所在する洋館付二階建和風住宅。玄関を東面道路に向け、玄関脇に洋館、東西中廊下の平面とする。中央続き間座敷東西の階段は動線を公私に分け、各所に覗き窓を配し、要人の応接に備える。	2	住宅	建築物
19	岡田日帰上人記念講堂	東京都杉並区	S12／同15・同後期・H12改修	堀之内妙法寺西方にある立正高等女学校の鉄筋コンクリート造講堂。全体に装飾排して時代相を示すが、車寄せ廻りは八角窓やファンライトで荘厳する。講堂の客席は緩傾斜で、2階席平面は円弧を描く。	2	学校	建築物
20	旧板垣家住宅主屋	東京都足立区	S13／H17・R2改修	千住宿の日光・水戸街道分岐に位置する洋館付二階建て和風住宅。入母屋造りの玄関脇に設けた洋館は、切妻造りフランス瓦葺きで台形出窓が瀟洒。街道沿いの伝統的景観を形成し、現在、料理店として活用。	2	住宅	建築物
21	旧赤星鉄馬邸	東京都武蔵野市	S9	A・レーモンドが設計した実業家の邸宅。屈曲した東西に長い平面で、外観は水平連続窓とする。キャノピーを差し出した玄関にはスリットを入れた曲面壁の階段室を構え、コンクリート造形の可能性を追求した。	2	住宅	建築物
22	旧佐橋家住宅主屋	東京都調布市	S11／同37移築・同60改修	数寄者(すきしゃ)が自ら設計した茶室付きの和風住宅。玄関から仏間、茶の間、寄付の三方に動線を分けて平面に工夫を凝らし、舟底天井茶室など、平面と空間構成に創意工夫がある。表門は甲州街道に開く侘びた外露地門で、背後に主屋の茶室へ飛石を延ばす。敷地全体で数寄者の理想を表現する。	2	住宅	建築物
23	旧佐橋家住宅門		S11／同37移築		1	住宅	工作物
24	本覚寺本堂	神奈川県鎌倉市	T12	若宮大路の東に位置する日蓮宗寺院。本堂は桁行七間、梁間七間、正面に軒唐破風の向拝を付す。小屋組はトラス組として軽量化を図る。棟梁は十代伊藤平左衛門が務め、建立(こんりゅう)直後の関東大震災を乗り越えた。客殿は本堂東正面の南側に並び、入母屋造りの式台玄関を付し、銅板葺きの庇を三方に巡らす。内部は10畳の座敷を三室並べ、本堂側を上座敷として床構えを設ける。庫裏は切妻造り桟瓦葺きの東西棟で、入母屋造りの玄関を付す。内部は四室を田の字に配し、南西間を床構え付き座敷とする。本堂北の分骨堂は日蓮上人の分骨を納める廟堂で、方一間の身舎に裳階を付す。鐘楼は本堂の北東、石積基壇上に建ち、干支の透彫欄間等、装飾豊富な鐘楼。手水舎は本堂の東にあり、欄間を龍や鳳凰の彫刻で飾る等、小規模ながら質の高い彫刻で華やかに飾る。楼門は、伽藍東辺の夷堂橋(えびすどうばし)西詰にある門。下層両脇間に金剛力士像を安置し、上層は一室の板敷、鏡天井とする。大門は伽藍北辺の小路に開く高麗門で門扉を省略する。装飾施した二段の絵様肘木や板蟇股等の木柄太く、寺院の風格を示す。昭和の造営は本堂の副棟梁堀田太吉によるもので、関東大震災後の伽藍復興の様相を伝えるとともに、鎌倉の歴史的風致を形成する。	2	宗教	建築物
25	本覚寺客殿		S5		1	宗教	建築物
26	本覚寺庫裏		S前期		1	宗教	建築物
27	本覚寺分骨堂		S5		1	宗教	建築物
28	本覚寺鐘楼		S6		1	宗教	工作物
29	本覚寺手水舎		S前期		1	宗教	工作物
30	本覚寺楼門		安政2(1855)／M9移築・H25改修		1	宗教	建築物
31	本覚寺大門		S前期		1	宗教	工作物